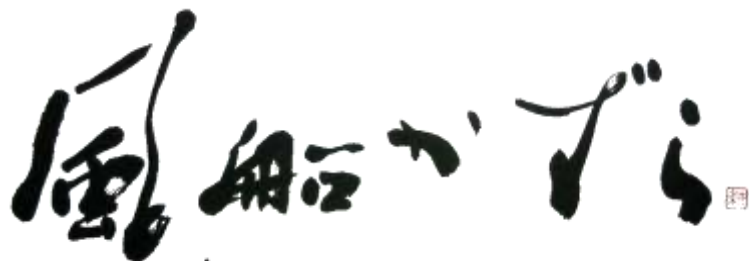


## 放送大学浜松同窓会



## 第9号

発行：放送大学浜松同窓会

編集：浜松事務局

発行責任者：仲塚とし子

発行：平成27年3月31日

題字は松下安延氏（雅号耕山）

seeds of heart

放送大学同窓会連合会 <http://rengokai.ouj-dosokai.net/>放送大学浜松同窓会 <http://hdosokai.web.fc2.com/>浜松サテライトスペース <http://1hamaouj.web.fc2.com/>

## ♪学ぶのは楽しみ、知ることは喜び♪

静岡学習センター所長 高木 敏彦

縁あって放送大学に赴任して2年が経ちました。この間、放送大学生の真摯な勉学態度を目にし、聞くに就け、何時も頭が下がる思いがします。放送授業という孤独な学習を根気良く続けられる意志の強さ、面接授業における目の輝きや活発な質疑、単位認定試験に向けての勉学、……。これまで、20歳前後の一般大学の学生を何十年となく観て来た。この差は何なのか？と自問自答するこの頃です。自分の学生時代も含めて省みると、勉学（学問）の位置づけがあやふやであり、自分勝手に不必要、苦手と思う分野は取り組まず、やっても時間が経てば忘れる薄っぺらな知識。社会に出てはじめて必要性を感じる諸分野は数多く、あの時やっておけば良かったなど、今から思うと反省することばかりである。

それに比べて、本大学では、10数年という長年月かけて卒業される方、いくつものコースを卒業される方、興味ある分野を長年追及される方などなど……。まさに生涯学習の場としての真髄と言えるでしょう。それも、皆さん方は、楽しんで学ばれています。まさに、学歌にも歌われている♪「生きることは学ぶこと、学ぶのは楽しみ」「生きることは知ること、知るとは喜び」♪を実践されているのではないのでしょうか。この社会で生じる事象は、全て何らかの形で繋がっており、単独には存在しえません。ある一つのことを理解するにも他の分野の関わりを念頭におく必要があります。

「日本の政財界人が海外に出向いた折、ビジネス（専門）やゴルフの話題には話が弾むが、その他の話題には無口になる。一方、外国人の多くはどの分野においても口を挟み、話題豊富で場を盛り上げる。外国には真の文化人が多いが、日本人は……」という話をよく聞きます。ますます楽しく学んで、心豊かな真の文化人を目指しましょう！

## 学生募集

放送大学では、夢を実現させるべく入学される方々を心から歓迎しています。

放送大学総合受付 ☎ 043-276-5111

FAX 情報サービス ☎ 043-211-8351

放送大学ホームページ <http://www.ouj.ac.jp/>

# 平成26年度同窓会活動を振り返って

放送大学浜松同窓会会長

小島邦弘

月日の過ぎるのは速いもので、昨年3月「風船かずら」を発行したとばかり思っておりましたが、はや、最新号を発行する3月が巡ってまいりました。

平成26年度は会員、役員の皆様の御助力により、小さな一歩ですが、活動に前進が見られたと感じております。その要因の一つとして、在校生の会「学燈会」との連携が進んだことと、浜松サテライト事務局の皆様が御多用中にも関わらず、御力を御貸しくださったことが大きいと思っております。この点に関しまして、学燈会の鈴木会長、古橋事務主幹に紙上略儀ながら御礼申し上げます。

同窓会活動で思い出に残るのは、情報化社会のなかで放送大学生の情報機器を駆使した勉学に対する意欲をいかに高めるかが、課題になっておりますが、この件を前進させるために、ネットスタディの皆様が事務所横の会議室で勉強会を開いていただいたことです。会議の主催者河合さん、小笠原さんにお礼を申し上げます。又、勉強場所の確保にご尽力いただいた静岡学習センターの高木所長にお礼を申し上げます。情報処理の勉強会は、今後引き続き当同窓会の重点活動として推進してまいりたいと思っております。皆様のネットスタディへのお参加を期待しております。

平成27年度も引き続き、浜松同窓会・浜松学燈会をよろしくお願いたします。

## 「富士山でのフィールドワークを体験して」

仲塚 とし子

駿河湾を北上していくと、その海の青が消えたところに、富士の山が聳えていた。頂きの雪は白く輝き、雄大であるがすがすがしい清らかさを、以前飛行機から見て感じていた。

この富士山の自然のすばらしさをフィールドワークとして、講師の増澤教授とサポート役の研究熱心な学生達とクイズのやり取りをしながら散策した。そして、「富士山山麓の村」に宿泊し、耐久生活に近い体験をしながら、討論会を通して、これからの私達の取り組み方を考えた。

1日目の青木原の樹海では、溶岩状の特殊な条件下でも、ヒノキなどの木々の根は溶岩の上を這いまわり、2日目の西白塚の散策では、ニホンジカによる食圧・踏圧を受けて、枯れていく木々も見られた。

しかし、このような過酷な環境にあっても土壌は発達し、花を咲かせ、種子を成熟させていく。現在生育している針葉樹も長い年月の間には、落葉広葉樹に姿を変えていくと予想される。

私達は、富士山に対する理解をより一層深め、刻々と変わりゆく原生林や山に生息する無数の動植物を守らなくてはならない。そして、信仰の山として富士を崇め、その壮大さをたいせつにするとともに、自然に対する畏敬の念をわすれてはならない。



# 湖北五山

小倉 康弘

浜松市北区の、国指定の重要文化財を有する五つの寺。今回紹介する龍潭寺（引佐町）  
摩訶耶寺（三ヶ日町）、大福寺（三ヶ日町）のほか、初山宝林寺（細江町）、方広寺（引佐町）がありま  
す。それぞれに趣が異なり、見どころも豊富です。

浜名湖の北側、連なる山々に抱かれた地域には古くから仏教文化が栄え、多くの歴史ある寺が大切に  
守られてきました。桜や紅葉の季節だけでなく、一年を通じて観光に歴史の学習に適した場所です。

龍潭寺（りょうたんじ）

龍潭寺はかつてこの地の領主で、のちに彦根藩藩主の大名となった井伊家の菩提寺です。花や緑が豊  
かな境内には、江戸時代に造られた本堂、開山堂など貴重な建物が並んでいます。

天平5（733）年、行基によって開かれ、当初の寺号は地蔵寺であったが寛治7（1093）年に井伊共  
保が葬られた際にその法号から自浄寺と改められた。戦国時代の永禄3（1560）年に戦死した井伊直盛  
がこの寺に葬られると、直盛の法号から龍潭寺と改められた。

庭は江戸時代の茶人で数々の名園を造った小堀遠州による庭園が有名で、池と苔むした石や木々とは  
絶妙に調和した景観に、時を忘れて見入ってしまいます。

山号 万松山、宗派 臨済宗妙心寺派、本尊 虚空蔵菩薩

摩訶耶寺（まかやじ）

摩訶耶寺は真言宗の古寺、奈良時代（726年）に開かれ、平安時代末期に現在の場所に移されました。  
千年の時を越えて受け継がれてきた仏像と静岡県最古の庭園が見どころの静かなお寺です。平安時代の  
影響を残して鎌倉時代の初期（1240年ころ）に造られた庭園は、大変貴重なもので、池と力強い石組  
みが醸し出す幽玄美が特徴。池に映る空や雲、木々や遠くの山まで含め、スケールの大きさを感じます。

国の重要文化財に指定されている仏像と間近に向き合い、心が穏やかに満たされてくるようです。

山号 大乘山法池院、宗派真言宗、本尊 観世音菩薩

大福寺（だいふくじ）

大福治は貞観17（875）年富幕山の中腹に創建された幡教寺がはじまりで、承元3（1209）年、現在  
の地に移転し、名前も大福寺に改める。浜名湖とつながる猪鼻湖を望む山腹にあります。まずは長い参  
道を進み、仁王門を拝観。門の左右に配された鎌倉時代の金剛力士像は、力強く迫力があります。

江戸時代の茶人、山田宗偏が愛好したという庭園は、背後にある山を生かした造形。大きな池が、幻  
想的な雰囲気醸し出しています。

浜松地方名産である「浜納豆」の元祖といわれる珍味で、室町時代から生き続ける納豆菌を使い、大  
福寺で手作りされています。

山号 瑠璃山、宗派 真言宗、本尊 薬師如来

初山宝林寺（しょさんほうりんじ）

初山宝林寺は寛文4（1664）年、京都宇治の黄檗山萬福寺の末寺として、隠元禅師に従って中国から  
の渡来僧・独湛禅師によって創建された黄檗宗の寺。境内には創建当時の面影を残す物が多く、仏殿・  
方丈は黄檗宗伝来初期の中国様式建物として国の重要文化財。山門と独湛禅師画像は県指定文化財。

金指近藤、気賀近藤両家の菩提寺として寺領百石を有し、黄檗宗の専門道場として遠州方黄檗文化の中心として栄えた異国情緒あふれる寺院である。

境内にある「金鳴石」は、叩くと澄んだ音がするため「金が成る石」と呼ばれ、商売繁盛の御利益が在るといわれています。

山号 初山、宗派 黄檗宗、本尊 薬師如来

方広寺（ほうこうじ）

奥山半僧坊の名で知られる方広寺は、建徳2（1371）年に後醍醐天皇の皇子、無文元選禅師によって開設された東海の名刹、臨済宗方広寺派の本山。うっそうと茂る杉の老木と五百羅漢が迎える境内には、大師をお助けしたいという半僧坊大権現を祀った真殿がある。この真殿は厄除け、諸願成就の祈願所として名高い。三重塔や重要文化財の七尊菩薩堂などもある。予約で精進料理を味わうこともできる。

山号 深奥山、宗派 臨済宗方広寺派、本尊 釈迦如来

## 大塚国際美術館の魅力

河合京子

鳴門大橋の下に、日本最大級の常設展示場を持つ「陶板名画美術館」があると噂に聞いていた。四国一周のドライブした折に、淡路島から鳴門大橋を通過して四国に入ったので、鳴門公園の中にあるその“大塚美術館”を覗いてみることにした。

“複製画の美術館”との先入観があり、期待度はそんなに大きくはなかった。しかしその思いはすぐに覆されることになった。

まず、その広さに驚いた。地下3階から地上2階まで、鑑賞ルートは約4kmにわたっている。そこに、世界の名画1000点余りが展示されている。入場料にも驚いた。大人3150円、大学生は2160円と日本一高いそうだが、その価値はありそうだ。

ここの名画は、国立美術館理事長はじめ、著名な美術史家たちに厳選されたものであり、原寸大で忠実に陶板に再現されている。ピカソの子息や各国の館長らが来日して、検品もしている。古代遺跡や教会等は、環境空間ごとに再現されている。バチカン宮殿にあるシスティーナ礼拝堂は、天井画も壁画もそっくり移築した様になっており、結婚式ができる。今や反戦の象徴となっているピカソの「ゲルニカ」は、ソフィア王妃芸術センターでは防弾ガラス越しに展示されているというが、ここにある3.5×7.8mの陶板は、触ることもできる。ポンペイ遺跡の壁画も然り、ミケランジェロの最後の審判も見事である。

元々は、後の大塚オーミ陶業社長が、紀伊水道の白砂を生かし、上質のタイルを焼き始めたためた事から始まった。しかしその矢先の石油ショックで、建築での需要は激減した為、その技術を使って美術品を作ろうと方針が転換された。まず、尾形光琳の国宝「カキツバタ」を、1m×3mの陶板に正確に焼き付けることが第一歩だった。その後、更に大型の美術陶板が焼けるようになっていくが、より完成度の高い作品を作るべく、色を2万色まで開発していった。世界の名画を原寸大陶器に複製したのは、大塚美術陶板が世界初であった。そして、1998年にこの美術館が設立された。

原画は色あせたりひび割れたりするが、陶器なら何千年もそのままの色彩で、後世に残すことができる。そして、触ってもよいし、写真撮影も許可されている。

私は、イタリアで、ダ・ビンチの「最後の晩餐」を鑑賞したが、中学時代の教科書で見た色と違うと思っていた。大塚美術館には、修復前と修復後の壁画が両方展示されていて、なるほどなあと思った。

この美術館で鑑賞すれば、実際に現地で見たいオリジナル絵画を思い出しすし、初めて見るものは、今度は本物を見たいなあとの思いが募る。皆様も、ゆっくり時間を取って、世界中の名画を鑑賞しに大塚美術館に足を運んでみてはいかがでしょうか。

# 「礼に始まり生涯学習」

平野 忠

私が放送大学を知ったのは、今から約28年前になる。UHF波を使って埼玉県でも観られるようになったからだ。中学生だった私にとって直接在学(当時)した訳ではないが天文学の講義(カールセーガン氏の理論紹介)や、特別授業での小沢昭一先生の迫力ある講義は、今でも心の中に焼き付いている。

ある放送授業では「地球が丸い証拠に倍率の極端に高い望遠鏡で覗いてみれば、自分自身の後頭部が見えるはずだ。もちろん現実には不可能だが」という内容は、今でも鳥肌が立った記憶と共に珠玉の講義として心の中の財産として残っている。

いつの日か、放送大学に入学したいという気持ちを抱きながらも、東京都国分寺市にある経済系大学の門をたたくこととなり、卒業後は運良く教育関係の仕事に就くことができた。現在、教鞭取る傍ら、ことあるごとに、生徒達に放送大学を勧めるようにしている。入学することもさることながら、高等学校に在学しながらでも良いので、まずは番組や講義に触れることを奨励している。何か深い学びのへの、「ヒント」が隠されているかもしれない。例え既存の4年生大学に入学したとしても、その後の人生において、少なからず良い影響を与えてくれることに違いない。それは、小沢昭一先生の講義に熱中した自分自身の経験からも明白だ。

「これだ」と思える、学びの扉は年齢に関係なく、いつでも開いて良いのだ。学びの源泉がたくさん存在する生涯学習に対して、決して受け身になって欲しくない。老若男女の方々为社会人としてその後の人生をどう切り開いていくか、その節目で学びが終わってしまうのではなく、一生継続するという豊かな気持ちをいつまでも育んでいってもらいたい。例え60歳になっても70歳になっても、学習したいという想いを胸に生活していくことは、とても大切に尊いことであることを特に若い方達に知って欲しい。そのための仕掛けが放送大学にはふんだんに盛り込まれている。決して学びに引退はないと言いたい。

いつも思うこととして、年齢的に人生の先を走っている先輩達が多く在学している放送大学は、学習に対する真面目で真剣に取り組もうとする真摯な活動が日々確認できる。私も参加したい、その先人達に会いたい。そういった考えから科目履修生や3年次編入をし、放送大学を卒業することも実現できた。定期試験などでは、皆、一生懸命答案用紙に向かう姿は、やはり生涯学習の真髄を観たような気がする。また、そこで、一人の(ご年配の方)学生の姿に心を打たれたことがある。必ず試験室に入る時と出る時に一礼をするのだ。剣道か何かをやっていた方かと推察するが、何とも言えず清々しい気持ちに駆られる。来て良かったと思うほど、放送大学には凛とした学びの森が存在する。この空気感を体感するだけでも素的な気分にしてくれる。

将来は大学院に入学したい夢を持っているが、この一礼から学んだことを次の世代にも継承していきたい。改めて、生涯学習という「未来」に向けて心の中で一礼をしたい。入り口はいつでも待っていてくれる。後は、その一歩を踏み出すかどうか、皆さんのほんの少しの勇気だ。仲間が待っていることをまとめの言葉としたい。

## 特別講義「社会の変化と学習」

学燈会代表 鈴木 敏美

私が放送大学と庄田先生の関わりを知ったのは平成25年1月に発行された静岡学習センター開設20周年記念誌の「燈」によってでした。開設当時の静岡県教育長でした。「庄田先生でよかった」とすぐに思いました。私は先生に高校・通信教育・浜松市役所勤務時代にたいへんお世話になっております。

特に今から50年も前に「いつでも、どこでも、だれでも学べる」という、まさに放送大学の趣旨と同じことを目的とした、通信教育「大学講座」の静岡県西部地区顧問をやられているときに、先生のお話にとっても勇気づけられました。この時の若い人の切なる望みを踏まえて、放送大学開設にご尽力いただいたのだらうとすぐに考えました。後で先生と直接お話しをしたとき、当時は沼津・三島までしか電波が届かなかったので三島に開設し、受信範囲が広がるのを待ったとのことでした。その時の先生のご決断がなかったら、こんなに早く静岡学習センターが開設されなかったでしょうし、県西部に浜松サテライトスペースが設置されなかったでしょう。

一年ほど前、先生が公職をご勇退なさって、お宅におられることを知りました。副知事までやられた方ですので、厚かましいとは思いましたが、講演をお願いしたところ、快くお引受くださいました。

講演は社会変化に伴う学習の変化についてわかりやすく説明されました。最後に「野生生物は生殖機能がなくなれば死亡するが、人間は高齢者の役割がある。高齢者がいきいきと活動していると、年をとってもあんなすばらしい生き方があるのだと若い人が見てホッとします。そんな生活を送ってほしい。」とおっしゃいました。以前先生がおっしゃった「あんな年寄りになりたいと言われたい。」というのがこのことだと思いました。やっぱり、学生時代と同じように、先生にお尻を叩かれたなと感じました。

心の内は顔に出るといいます。前向きで明るく、はつらつとして、周囲の人に気配りができる、やさしい顔をした年寄りになりたいと考えています。そして、地域の人の役に立つような活動をしながら今後の生活を送りたいと思っています。

## 東海道を歩く夢

安松 和男

私が貸与していただいた2頭目の盲導犬の犬種は、ラブラドル・リトリバー3歳の雌で名前は、モネという。真っ黒な色をしているが毛並はとてもつやがある。

実は、私は、40年前に訓練を受けて盲導犬を利用していた。1頭目のとき盲導犬によって快適な生活を送っていた。しかし、犬の寿命は短く盲導犬としての実働年数は10年足らずしかない。実際1頭目の犬も、12年目に亡くなってしまった。本来ならすぐに2頭目を取得すべきであるが当時は仕事に追われあきらめていた。

それから30年近く経過した一昨年夏に、たまたま日本盲導犬協会による体験歩行が浜松市福祉交流センターで開催された。そこで久しぶりに盲導犬と歩くなかで、しばらく忘れていた犬と共に快適に歩く素晴らしさを、思い出させてもらった。そして、その爽快感が2頭目をもらうことを決意させた。

決意するまでに背中を押してくれたことが2つある。一つは40年前、訓練でお世話になった訓練士の多和田悟さんから直接お電話をいただいた事。そして、もう一つはサピエ図書館で前放送大学静岡学習センター所長、本多隆成先生の「歴史の旅東海道を歩く」の本に巡りあったことである。

この本には東海道五十三次の各宿場の江戸時代の本陣や脇本陣の数や江戸時代の人口が詳しく記されている他、写真で遺跡や標柱が掲載されている。他の地域は良くわからないが地元浜松の宿場を見ると、天竜川を渡って浜松に入ると、金原明善の生家安間新田から姫街道が分岐していること、馬込橋を渡ると旧浜松宿となり徳川秀忠誕生の井戸、浜松城跡など歴史的な町並みである連尺町、伝馬町、旅籠町と詳しく説明されている。杉浦本陣、川口本陣は街道の西側であることがわかるが、おもしろいことに梅屋本陣跡は、現在のザザシティに当たることが記されていた。このように地元のことであっても本多先生の本で初めて知ったこともたくさんある。

私は、この作品を読んで本多先生のように東海道を日本橋から京都に向かって歩いてみたいという気持ちにさせられた。それは、一度に全部を歩くのではなく、今月は、日本橋から、東京、品川、来月は、その次の宿場と少しずつ刻んで歩くつまり、私自身の歴史の旅、東海道を歩く夢を持っている。

# 会員紹介

本年度も多くの方が浜松同窓会に入会されました

名 前	住 所	名 前	住 所	名 前	住 所
鈴木 眞喜子	磐田市	仲塚 とし子	磐田市	安松 和男	浜松市中区
後藤 淑子	浜松市東区	小笠原 敏弘	浜松市中区	松下 安延	浜松市北区
大石 純子	浜松市中区	小倉 康弘	浜松市中区	萩原 利行	掛川市
岡本 康子	浜松市南区	古橋 達也	浜松市北区	小島 邦弘	浜松市南区
平成 22 年度入会		山本 勝司	島田市	中村 岩子	浜松市西区
鈴木 正男	浜松市北区	鈴木 民江	浜松市浜北区	赤堀 庄司	掛川市
小松 武夫	浜松市浜北区	長嶋 孝行	御前崎市	馬淵 和美	浜松市中区
横田 典子	田原市	豊田 宣子	湖西市	鈴木 尚	豊橋市
藪下 径子	浜松市東区	井口 徳久	浜松市南区	澤木 宏子	浜松市中区
小宮山 ひろみ	磐田市	大島 充裕	浜松市西区	服部 昭子	袋井市
松本 健太郎	豊橋市	小田切 さつき	浜松市東区	河合 京子	浜松市中区
柘本 裕士	浜松市天竜区	鈴木 通代	浜松市西区	鈴木 朝子	浜松市中区
尾藤 登	浜松市東区				
平成 23 年度入会		松本 幸子	磐田市	大坪秀雄	浜松市天竜区
藤城佐知子	田原市	本多 佳子	浜松市南区	太田浩一	浜松市浜北区
林本和俊	浜松市中区	久米 定夫	浜松市中区	小宮山眞知子	浜松市中区
平野正樹	浜松市浜北区	井口 麗子	浜松市中区	朝比奈裕美	島田市
河合勝仁	浜松市中区	小林 正孝	浜松市東区		
平成 24 年度入会		柴田 健市	焼津市	平野 忠	愛知県新城市
坂本 政則	浜松市浜北区	鈴木 敏美	浜松市西区	紙谷 稔	浜松市浜北区
石塚 健一	浜松市中区	佐藤 剛	磐田市	早崎 浩子	島田市
伴 純雄	湖西市				
平成 25 年度入会		渡辺 晴俊	浜松市東区	近藤 千恵子	浜松市北区
平成 26 年度入会		齋藤 善彦	浜松市中区	鈴木 佑吾	豊橋市
田中 久子	浜松市東区	葛原 通夫	掛川市	黒田 容美	浜松市浜北区
鈴木 みづほ	浜松市中区	川口 麻紀子	浜松市東区		

## 編集後記



皆様のご理解とご協力を得まして、会員も増員しています  
平成27年度からは、現会員は全員終身会員となります  
学燈会との共催事業も開催し、活動が充実してきました  
講演会や研修会など、多くの方の参加をお待ちしています